

横浜市民の足 ～横浜市電～

明治37(1904)年7月15日、横浜電気鉄道が、神奈川—大江橋間(現青木橋—桜木町間)で、市内初の路面電車を開業します。その後、大正10(1921)年4月1日に横浜市電気局(現交通局)が横浜電気鉄道を買収し、市営の路面電車「横浜市電」が誕生しました。

初めて磯子に路面電車が来たのは明治45(1912)年、駿河橋から八幡橋まで延伸したときです。堀割川沿いに電車が開通すると、滝頭に車庫が設けられました。その後、大正14(1925)年には聖天橋、さらに昭和2(1927)年には杉田まで延伸しました。



滝頭(現在の新磯子橋付近)から八幡橋の方面を望んだ風景
36形 38号 明治45(1912)年

戦後、自動車が普及し、また、昭和39(1964)年5月に桜木町—磯子間に国鉄根岸線が開通したことで、「横浜市電」の利用者が減り、存続が難しくなります。昭和41(1966)年に「横浜市電」の廃止が決定し、その年に生麦線と中央市場線、その翌年に杉田線(杉田—葦名橋間)が廃止されました。

「横浜市電」は、昭和47(1972)年3月31日、桜木町から滝頭、葦名橋までの最後の路線が廃止されるまで、約70年間にわたり、横浜市民の足として活躍しました。翌年の昭和48(1973)年8月には、磯子区の滝頭車両工場跡地に、『横浜市電保存館』が開館しました。ここには、車両等が当時の姿のまま保存されており、「横浜市電」の歴史を学ぶことができます。

横浜市営交通は令和3(2021)年で100周年を迎えました。「横浜市電」の座席に座って、その歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

横浜市電保存館

【所在地】滝頭 3-1-53 【TEL】045-754-8505
 【開館時間】9:30～17:00(最終入館16:30)
 【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)、
 年末年始(12/29～1/3)
 【料 金】大人(高校生以上)300円、
 3歳から中学生100円



横浜電気鉄道の開業を知らせる明治37(1904)年7月17日付の朝日新聞の紙面

「横浜市電」は、「ちんちん電車」の愛称で市民から親しまれました。「ちんちん電車」の由来には2説あり、1つ目は車掌がヒモを引っ張って運転手に合図した打ち金の音です。「チンチン」と2回鳴らすと「発車」、「チン」と1回鳴らすと「止まれ」、3つ鳴らすと「急停車」の合図でした。もう1つは、通行人への警報用に運転手が足で鳴らした床下の鐘「フォート・ゴング」の「チンチン」という音です。



横浜市電保存館の保存車両。車両に乗り込むと、まるで当時にタイムスリップしたかのような雰囲気を感じることができます。

参考:「横浜の街とともに 横浜市営交通100年」神奈川新聞社(2021)
 長谷川弘和 著「横浜市電の時代」大正出版株式会社(1998)
 「ちんちん電車 ハマツ子の足70年」横浜市交通局(1972)

【お問合せ】磯子区総務課

電話 750-2316 FAX 750-2530